

## 2.2 陸前高田復興支援プログラム（岩手県陸前高田市）

### 陸前高田：「まち」と「活動」の転換期

今年度、陸前高田セクションの活動は大きな転換期を迎えたが、多くの方々のご協力とご理解のおかげで、活動を進めることができた。あらためて、お礼を申し上げたい。

2012年度から15年度まで4回にわたり夏に実施していた、主に関東圏から小学生を陸前高田に連れて行く「かわいい子には旅をさせよ」（以下、かわ旅）を休止し、「東日本大震災を風化させない」「陸前高田の方々の経験から、自分たちのまちで防災・減災に取り組む」「被災地」としてだけでなく、豊かな歴史や自然を有する陸前高田市の魅力を伝える」という活動の柱はそのままに、学生たちが陸前高田市内を訪問し、地域の方々と活動する機会を増やしながら、あらためて次年度以降の活動を考える1年となった。学生たちにとっては、「かわ旅」で子どもたちの引率をするのに必死だった頃と違い、自分たち自身が陸前高田の現状に向き合い、また人々と交流することができた1年になったと思っている。

例えば、市内の仮設商店街「高田大隈つどの丘商店街」の子育て支援拠点「きらりんきっず」の夕涼み会において、学生がコンセプトを考え準備したお化け屋敷を通じて地域子どもたちやその親の世代と交流できたことは、学生にとっても新しい体験であった。また、今までは短時間の体験だった8月7日の「けんか七夕まつり」と「うごく七夕まつり」では学生が終日関わるなど、地域の方や外部から来た「助っ人」のみなさんと楽しみ、語る機会も得た。そのほか、訪問した下<sup>しもわの</sup>和野災害公営住宅で市民の方とも思いがけずお話することができるなど、学生にとって陸前高田をさらに身近に感じられ、また、住民の方々の状況や思いを知ることができた1年となった。

2017年1月、陸前高田市内で岩手大学と立教大学が実施した「陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム」では、陸前高田のまちの変化が私たちの活動をどう変えてきたかを発表させていただいた。このシンポジウムは、陸前高田市において活動してきた大学が集まり、大学どうし、また市民の方々とそれらの活動を共有し、相互交流をめざしたものだ。登壇しての発表と、ポスターによる発表を通じて、全国から多くの大学がどのような活動をしてきたのかが明らかになり、整理されたと感じている。多くの市民の方も来場されており、私たちはどちらかが「支援する側」・「支援される側」という固定された関係なのではなく、個々の人間としての友情や信頼関係の上に我々大学の活動が成り立っていることを実感した。試験期間に重なり学生たちが参加できなかったのは残念だった。

岩手大学と立教大学は、4月に市内に「たかたのゆめキャンパス」を開設する予定であり、大学と市民の皆さんの新たな交流・活動拠点としても期待されている。今までは、「あの大学がこの前来た」とか「あの大学の学生も活動している」などの話を聞いたり、市内で別の大学の方に会ったりすることはあっても、情報は断片的であった。今回、このようなイベントによって陸前高田市内の、復興支援に関する大学関連のソーシャルキャピタル（社会関係資本）が俯瞰できたことは、現地で活動する私たちにとっても大変有意義だった。

震災から6年が経ち、活動を終了していく大学や組織が少しずつ増えているのかもしれない。しかし、津波で壊滅的な状況になってしまった沿岸部に、「まち」が再生し、人々の暮らしの営みが戻るのはいからである。そのときにソフトパワーとして大学生の力が発揮できる場があるならば、そのためのしくみ作りをしていきたいと考えている。次年度もひきつづき「転換期」としての1年となり課題も出てくると思うが、学生たちも活動の新たな方向性を見出したようなので、市民の方々に必要とされる活動となることを期待している。

（ボランティアコーディネーター 中原美香）

## ●2016年度「陸前高田復興支援プログラム」の主な活動

日にち	内容(参加人数)
4/29(金・祝)	「被災者とその家族、支援者自身のこころのケア」研修実施 講師：ボランティアセンター長補佐 心理学部心理学科 杉山恵理子教授
6/24(金)～6/27(月)	スタディツアー(10名)
7/8(金)～7/11(月)	きらりんキッズ・けんか七夕ボランティア(6名)
8/5(金)～8/10(水)	・けんか七夕(4名) ・うごく七夕(3名)
8/7(日)～8/11(木・祝)	陸前高田市教育委員会キャンプ「Go!Go!キャンプin生出」(2名)
9/9(金)～9/12(月)	長洞元気村 広田「復興・防災祭り」(6名)
11/12(土)	明治学院礼拝堂献堂100周年記念礼拝にて「くまもと新町古町復興プロジェクト」への募金呼びかけ活動(陸前高田セクションから1名)
11/24(木)	半年の活動を振り返るミーティング・新規企画プレゼン大会
1/21(土)・1/22(日)	「陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム2017」教職員2名出席 ※中原美香コーディネーターが発表「陸前高田市での大学生の活動に影響を与える要因についての考察」
2/15(水)～2/19(日)	春活動(4名)
3/20(月・祝)～ 3/24(金)	合同スタディツアー(大槌セクションと)(10名) ※担当コーディネーター2名も参加、それぞれの町の被災・復興状況やセクション活動を知り、自分たちの活動に生かす

## ◇スタディツアー

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災を知る</li> <li>・陸前高田のためにできること、したいことを考える</li> <li>・自分の命を守るためにできること、すべきことを考える</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災場所見学</li> <li>・陸前高田の方のお話を伺う</li> </ul>

## 実施概要

2016年6月24日の夜から27日の朝まで、四日間かけて陸前高田セクションの新メンバーによるスタディツアーがおこなわれた。新メンバーは皆、陸前高田を訪れるのは初めてであり、一から震災について学ぶことができた。旧道の駅タピック45、気仙中学校、気仙大工左官伝承館、普門寺、奇跡の一本松などの被災場所を見学し、産直はまなす、陸前高田ドライビング・スクール、長洞元気村にて実際に陸前高田の方のお話を伺う機会があった。地域について事前学習はしていたものの、実際に陸前高田を訪れ、生のお話を伺うことで震災の脅威を実感することとなった。それに加え、震災から5年経ち復旧・復興も進んでいること、それに伴う問題点なども学ぶことができ、今後陸前高田セクションで活動するうえで考えていかなければいけないことを多く得ることができた。

### 感想・活動を通して得た学び

スタディツアーに参加し、実際に陸前高田を訪れ、さまざまな方のお話を伺ったなかで、特に印象に残っていることがある。それは、災害に対して危機感を持つべきということだ。陸前高田の方は口を揃えて「当時まさかこれほどの津波が来るとは思っていなかった」とおっしゃっていた。二度と同じような悲劇が繰り返されないためにも、災害について知り、防災に対する意識を高めなければいけないと感じた。

### 今後に向けて

震災から月日が経った今、震災に対する心の風化という問題がある。上記で述べた災害への危機感を持ち続けるという点に関しても、私たちは震災を忘れてはいけないように感じる。陸前高田の方は震災を忘れたいという思いがあるなかで、私たち学生に多くのことを伝えてくださっている。私たち陸前高田セクションは、陸前高田の方が伝えてくれたこと、活動を通して学んだことを周りの人に伝えることができる。場所は違えども、つながりを感じられるような活動を今後おこなっていききたい。

(学生メンバー 心理学部心理学科)

### ◇7月「きらりんきっず」夕涼み会

目的	陸前高田の子どもたちと交流する
活動内容	きらりんきっず主催の夕涼み会で、運営準備の手伝い、お化け屋敷の企画・運営 ※NPO 法人きらりんきっず：岩手県陸前高田市の子育て支援団体 <活動内容>きらりんきっず図書室、情報コーナー、きらりん講座（お父さん、お母さん、子どものための講座）、ベルマーク回収、おもちゃ・赤ちゃんグッズ貸し出し、地域交流

### 実施概要

陸前高田市のNPO 法人きらりんきっず主催の商店街での夕涼み会で、運営準備の手伝いと出し物（子ども向けのお化け屋敷）をおこなった。

### 感想・活動を通して得た学び

子どもたちに地元での楽しい夏祭りの記憶を作ってもらいたいという思いから参加させてもらった。お化け屋敷が子どもたちに少しでも楽しんでもらえた点は良かったと感じている。ただ、年齢の小さい子どもも多かったため、少し怖がらせてしまった。きらりんきっず代表・伊藤さんの、参加親子を見守る熱い姿勢を垣間見ることができた。また、陸前高田の地域の方々の協力的な体制と温かい会話からつながりの強さを感じた。きらりんきっずと夕涼み会の存在が、地域の家族に求められていることを感じた一日だった。

### 今後に向けて

夕涼み会で子どもと接するという機会は陸前高田でも初めての試みだったので、次年度も携わることができれば嬉しいと思った。また、あまり商店の方々と交流ができなかったため、大学生という目線から改善点を見つけ、より楽しんでもらえるように考えていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

## ◇うごく七夕

目的	陸前高田市高田町の伝統的な祭りを絶やすことなく、後世に伝えていくための手助けをする
活動内容	荒町組の祭りの準備・運営

## 実施概要

地元の方々をはじめ、他大学の方々や他県から来られたボランティアの方々と、うごく七夕の準備・運営をおこなった。具体的な祭りの実施内容としては、地域内を組ごとに山車を引いて回ったり、陸前高田伝統の踊りを踊ったりした。その合間には、地元の方々や他のボランティアの方々と料理を作って食事をともにするなどし、交流を深めた。

## 感想・活動を通して得た学び

実際に地域の行事に参加することで現状を知り、そしてこの祭りが地元の方々にとって心の支えとなる重要なものであることを実感した。ボランティアなしでは実行が難しい祭りを何とか後世に伝えようとする陸前高田の皆さんの熱意がひしひしと伝わってきた。

## 今後に向けて

私たちが地域の行事に積極的に参加していくことで陸前高田に活力をもたらし、伝統を後世に伝えていく手助けができたと思う。そして、今以上に地域の方々と結びつきを深め、そこで学んだことをどんどん発信していきたい。

(学生メンバー 経済学部経済学科)

## ◇けんか七夕

目的	陸前高田市気仙町で900年続くお祭りに携わる人々と関わることで、震災前後のお祭りに対する思いの変化を知る
活動内容	けんか七夕の前日準備、当日準備、お祭りに参加、翌日片付け

## 実施概要

2016年8月5日（金）から8日（月）の活動に参加した。祭り前日の6日は事前準備をし、7日は当日準備の後、昼間は祭りに参加した。翌日の8日には片付けの手伝いをした。

## 感想・活動を通して得た学び

事前に写真で見ていたものとは比べ物にならない迫力であった。昼と夜では山車の見え方が大きく異なり、二度楽しめた。とても素晴らしい祭りなのでずっと続いてほしいと強く感じた。

## 今後に向けて

事前にもっと勉強しておけば、前日準備の際に山車のどの部分を作っているかが理解できたのではないだろうか。また、暑さにより飲み物が不足してしまったので、これらの反省点を生かし、来年も参加したい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇陸前高田市教育委員会キャンプ「Go! Go! キャンプ in 生出<sup>おいで</sup>」

目的	日常生活では体験できないキャンプ生活をする事で、学年を超えた仲間たちとコミュニケーションを深めるとともに、自然体験活動を通して子どもたちの自然への興味関心を深める
活動内容	キャンプ活動での小学生のサポート・班活動のリーダー

## 実施概要

陸前高田市教育委員会が市内在住の小・中学生を対象に、夏休みに実施した「Go! Go! キャンプ in 生出」に学生ボランティアとして参加し、子どもたちの班リーダーとして活動した。陸前高田市役所交流促進センターにて1泊2日で実施され、川遊び、火おこし体験、昆虫探し、ネイチャービンゴなどの活動をおこなった。

## 感想・活動を通して得た学び

今まで陸前高田で活動してきたなかで、市内の小学生と交流する機会が少なかったため、新鮮な気持ちで活動することができた。子どもたちをまとめる難しさを改めて感じた活動であったが、純粋に子どもたちとキャンプを楽しむことができ、陸前高田のまた違った自然の魅力を知ることができた。

## 今後に向けて

海側の印象が強い陸前高田だが、今回の活動で初めて生出地区へ行き、山側の魅力も知ることができた。今後の活動でスタディツアーを実施する際には、今回の活動で得たものを取り込めたらよいと思う。また、子どもたちの笑顔からは不思議なパワーがもらえると改めて感じた。これからは子どもたちと交流できる活動を増やしていきたい。

(学生メンバー 経済学部経営学科)

## ◇2月「きらりんきっず」での活動

目的	陸前高田の子どもたちと交流する
活動内容	自作のおもちゃで陸前高田の子どもたちと一緒に遊ぶ

## 実施概要

7月に引き続き、NPO法人きらりんきっずの活動で「お出かけきらりん」に参加した。市内の災害遺児支援のための施設「レインボーハウス」でおこなわれた。0才~3才の子どもたちや母親と一緒に交流を深め、現在の陸前高田に必要なことを調査する目的でおこなった。



## 感想・活動を通して得た学び

陸前高田の子どもたちは、東京の子どもたちよりとてもパワフルだと感じた。活動の最初は、子どもたちとどのように接していけばいいのか戸惑いを感じたが、次第に子どもたちから遊んできてくれて、改めて子どもたちの純粋さと高い柔軟性を知った。母親たちはきらりんきっずの先生がいるので安心して子どもたちを遊ばせ、母親同士で交流を深めていた。子どもだけでなく、親も安心して過ごせる施設だと感じた。

## 今後に向けて

子どもと親が安心して遊ぶことのできる場が市内に数か所あるそうだが、もっとたくさんあっていいのではないかと感じた。チームとしての活動について、今回は型はめパズルを持って行ったが、今後はより多くの年代の子どもたちと遊べるように、絵本や手遊びなども考えるとよいと感じた。

(学生メンバー 法学部法律学科)

## ◇陸前高田復興支援プログラム 今後の活動の新たな方向性

私たちのセクションは、2012年から今日にわたり代々受け継がれ活動してきた。震災から6年が経った今、復興は終わらないものの、震災直後に比べると現地のように大きく変化している。私たちは、その変化に合わせた支援を考え、実行していくことに難しさともどかしさを感じながらも、メンバーそれぞれが被災地への思いをもち、活動を続けている。定期的におこなっているミーティングでは、今、現地での課題や必要とされていることは何か、私たちにできることは何なのかなど、メンバー同士で何度も話し合った。その結果、来年度は、祭りのお手伝いなど、今まで継続してきた活動に加え、メンバーが企画した活動をチームに分けてそれぞれ活動することとなった。

チームは「食」「憩」「伝」の三つがある。まず、「食」チームは、陸前高田ならではの食材や伝統料理を関東で広めようと活動している。5月におこなわれる大学祭「戸塚まつり」で、陸前高田の伝統料理を提供する予定である。「憩」チームは、現地で高齢者や子どもたちがほっと一息できる交流スペースをつくることを目的として活動している。まだ実現には至っていないが、現地の方々の憩いの場として活躍できるよう、これからしっかりとプランを立てていく予定だ。「伝」チームは、明学生もしくは関東の若者に、陸前高田の復興の現状、また、私たちがこれまでの活動を通して感じてきた陸前高田の魅力を伝えていくことを目的として活動している。若者に発信することで、陸前高田に興味を持ってもらうこと、また、日常的に震災を思い出し、防災について考えるきっかけを与えたいと思い、活動している。

2017年度は、この三つの活動を柱とし、チームとしても個人としても、陸前高田と今後も深く関わり続けていきたいと思う。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)